

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

Ⅰ. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #119

12. 神の言葉に従わず、単なる人間の伝統に従うという偽善

ヨハネ7.1; MK 7.1-13 (並行テキスト：マタイ15.1-9)

この後 (5000人の食事の後)、イエスはガリラヤにいらっしゃいました。ユダヤの指導者たちがイエスを殺す方法を探していたので、ユダヤ中を巡回することになった。

1 Mパリサイ人と律法学者たちが来て イエスに エルサレムから集まった人々が 2 そして、弟子たちのうちの ある者が、汚れた、つまり洗っていない手で食物を食べているのをご覧になった。

3 パリサイ人をはじめ、すべてのユダヤ人は、昔の人たちの言い伝えを守り、手を洗ってからでないと食事をしません。4 市場から帰ってきたら、手を洗ってからでないと食事をしません。また、杯や水差し、鍋を洗うなど、そのほかにも多くの伝統を守っています。

5 そこで、パリサイ人や律法学者たちはイエスに尋ねました。「なぜあなたの弟子たちは昔の人たちの言い伝えに従って生活せず、汚れた手で食物を食べないのですか。」

6 彼は答えた。 「偽善者たちよ！イザヤはあなたたち偽善者について預言した時、正しかったのです。こう書いてあるとおりです。

「この人々は口では私を敬うが、
しかし、彼らの心は私から遠く離れています。

(7) 彼らはむだに礼拝する。

彼らの教えは単なる人間の規則に過ぎない。』 (イザヤ 29:13)

8 」あなた方は神の戒めを放棄し、人間の伝統に固執しています。」

9 そして彼は続けた。 「あなた方は、自らの伝統を守るために神の戒律を軽蔑することに長けている！ 1

0 モーセにとって MTは あなたに命じた、 Mは こう言った。

「あなたの父と母を敬いなさい」 (出エジプト記20章12節) そして、 「父または母を呪う者は死刑に処されなければならない。」 (出エジプト記 21.17)

11 」しかし、もし誰かが、自分の父や母を助けるために使われたかもしれないものを『コルバン』 (つまり『神に捧げられたもの』) であると主張するならば、 12 そうすれば、もう彼らに父親や母親のために何もさせてやらなくなります。 13 こうしてあなたは神の言葉を無効にしてしまうのです のために MT のために M あなたの あなたが受け継いできた伝統。そして、あなたはそのようなことをたくさんやっています。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

| コンテキストダイジェスト | |
|--------------|---------------------------|
| 位置 | ガリラヤ |
| タイムライン | 4月（26ヶ月目） |
| イエスの生涯の文脈 | 第4段階：ガリラヤにおける大宣教 |
| | I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波 |
| タイトル | 神の言葉に従わず、単なる人間の伝統に従うという偽善 |

コメント：

の朗読について考え始めるにあたって、イエスの宣教活動の年表について重要な点を明確にしておく必要があります。主の宣教活動の長さを測る上で過越祭が極めて重要であることは、以前にも述べました。ヨハネによる福音書には過越祭が四つ記されています。ヨハネによる福音書 5.1 の「ユダヤ人の祭り」が過越祭を指すと仮定すると、それらはヨハネによる福音書 2.13、5.1、6.4、12.1 です。これらから、イエスの宣教活動の期間は 3 年（36 か月）と推定されます。イエスの宣教活動の始まりとして最初の過越祭の 2 か月前、復活後の宣教活動としてその約 2 か月後を加えると、イエスの宣教活動は 40 か月になります。ヨハネによる福音書では、この 40 か月の年表を使って年表を記しています。

ヨハネ6章4節で五千人の食事に関連して言及されている三度目の過越祭は、イエスがエルサレムで過ごされなかったという点で、四度目の過越祭の中で特異なものでした。イエスはガリラヤに留まりました。なぜでしょう？パリサイ人たちは既に6ヶ月以上も前にイエスを殺そうと決めていたことを思い出してください。三度目の過越祭はまだイエスが亡くなる時ではありませんでした。イエスは、パリサイ人とユダヤの指導者たちとの激しい争いに巻き込まれることを知っていたため、毎年のエルサレムへの巡礼を控えました。ヨハネが説明しているように、「イエスは、ユダヤの指導者たちがイエスを殺す方法を探していたので、ユダヤ中を巡回することになった。」

イエスは再び、遠く離れた場所に留まることで、脆い平和を保った。南のエルサレムへ向かう代わりに、イエスは数日後に北の異邦人の領土へと向かった。

昨日、第三回ガリラヤ巡礼が多くの弟子たちの離反で終わったことを見ました（DJN #118）。今日は、この巡礼がパリサイ人との新たな論争で最高潮に達したことを見ます（過越祭の巡礼を避けるべき理由がさらに深まりました）。この時、イエスは彼らの偽善という大罪を叱責しました。

イエスは他のどの罪よりもこの罪を強く非難されました。悔い改める意志を持つ罪人には常に希望があります。しかし、罪深い人が自分の正しさを確信し、不従順をまるで完全な従順であるかのように誇示するなら、彼らに救いの望みはほとんどありません。偽善は死に至る悪です。

イエスの時代の聖書学者であるパリサイ人と律法学者たちは、モーセの時代から14世紀にわたって積み重ねられてきたラビの伝統に忠実に従っていました。問題は、その伝統の一部が旧約聖書の直接の戒めと矛盾していたことです。この場合、伝統に従うことは神の言葉に背くことと同義でした。人間の言葉が神の言葉よ

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

1. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

りも優先されていたのです。「コルバン」、つまり何かを神に捧げるという慣習は、人間の伝統を聖書よりも優先させる具体的な例でした。(マルコ7:10-13)

イエスは、神の戒めよりも人間の伝統に従う習慣を説明するために、次の3つのフレーズを使いました。

(1) 「**神の命令を放棄する**」(マルコ7:8)は、人間の伝統を無視したり捨て去ったりすることが、人間の伝統に従うための必要条件であると述べています。本来は逆であるべきでした。神の言葉のより高次の呼びかけの前に、伝統は退けられるべきだったのです。イエスが天に昇られた後、使徒たちはパリサイ人にこう言いました。「**人に従うよりも神に従うべきです。**」使徒行伝5章29節

(2) 「**神の戒めを軽蔑する**」(7.9) 盲目的な偽善によって生み出される神の言葉に対する態度を捉えています。パリサイ人は、自分たちの伝統を守ることによって神の言葉に厳密に従う最高の模範であると信じていましたが、イエスは彼らが神の言葉に従わないことで、実際には傲慢な軽蔑を示していると確信していました。

(3) 最後にイエスは彼らが「**神の言葉を無効にしている**」と語った。(7.13) 彼らの心を神への真の愛ある従順に向ける力を奪うことによって。彼は会話の冒頭で、本質的に同じ点についてイザヤの言葉を引用した。偽善は、私たちが自分の正義が間違っているにもかかわらず、公の場での正義の表現に固執させる原因となる。動機や態度は神のご性質とは正反対です。神への真の礼拝は、神への愛のみを動機として神の言葉に従うこと以外にはありません。このような従順は常に、神が私たちに注いでくださった愛と恵みへの応答なのです。

偽善は、私たちが神に従っているかのように振る舞いながら、実際には神の言葉に全く従わないことを引き起こします。それは、ある種の「正義」や「従順」を人前で誇示することですが、実際には罪深く、根底から不従順です。ですから、偽善は神を愛するという見せかけで神を軽蔑するのです。イエスがそれを憎まれたのも不思議ではありません。

応用：

現代のキリスト教生活において、私たちは宗教的・文化的規範を「伝統」とみなしがちですが、それはキリストの直接の戒めを容易に無効にしてしまう可能性があります。罪に対する私たちの理解は、聖書的というより文化的なものかもしれません。私たちは注意を払う必要があります。

「伝統」、つまり私たちの文化的・宗教的規範に対処する唯一の解決策は、新約聖書におけるキリストの直接的な戒めをすべて意識的に探求し、それらを心から従おうと努めることです。これには、絶え間ない学び、熱心な祈り、聖霊の力、聖書からの叱責や矯正を受け入れる心構え、そして同じ道を歩む他の信者との交わりが含まれます。

イエスの戒めすべてに従うことを学ぶという揺るぎない決意なしには、偽善と伝統から逃れることはできません。近道はありません。

神は今、あなたの中でどのような態度や習慣を変えるよう働いておられますか？

あなたの人生のこの分野において、神の恵みにもっと十分に応えるためには、何をする必要がありますか？